

新しい競争ルールの在り方に関する作業部会（第6回）

2007年5月11日

社団法人日本インターネットプロバイダー協会

日本のインターネット接続サービス市場の特長

日本のブロードバンドの進展は競争政策の結果

- 1999年に行われたNTTの組織改編において、NTT東西地域会社が営むことのできる業務は県内通信に限定された結果、県間通信となるISPサービスは提供できないことになった。
- その結果日本でのISP市場においては、ドミナントキャリアがサービスを提供しないことから、多数のISPによる競争状況となった。なかでもNTT東西地域会社の地域IP網を利用したブロードバンドサービスでは、2007年4月現在全国で700社以上のISPがサービスを提供している。
- それに加え、NTT東西地域会社のアクセスインフラのアンバンドルによって構築されたADSLインターネット接続を提供する事業者や、CATVインターネット接続サービス各社との競争の結果、日本ではISPレイヤーでの競争が盛んとなり、世界で最も高速かつ安価なインターネットが実現した。
- JAIPAはインターネット接続サービス市場の活性状況を維持するためには、今後ともこの競争環境の枠組みは続けたいといけなると考える。

インターネットを支えるISPの役割(1)

インターネットは色々なISPが連携して構築し運用

個性あるISPがそれぞれ特色を持ち、多様なサービスを提供

提供地域で分類

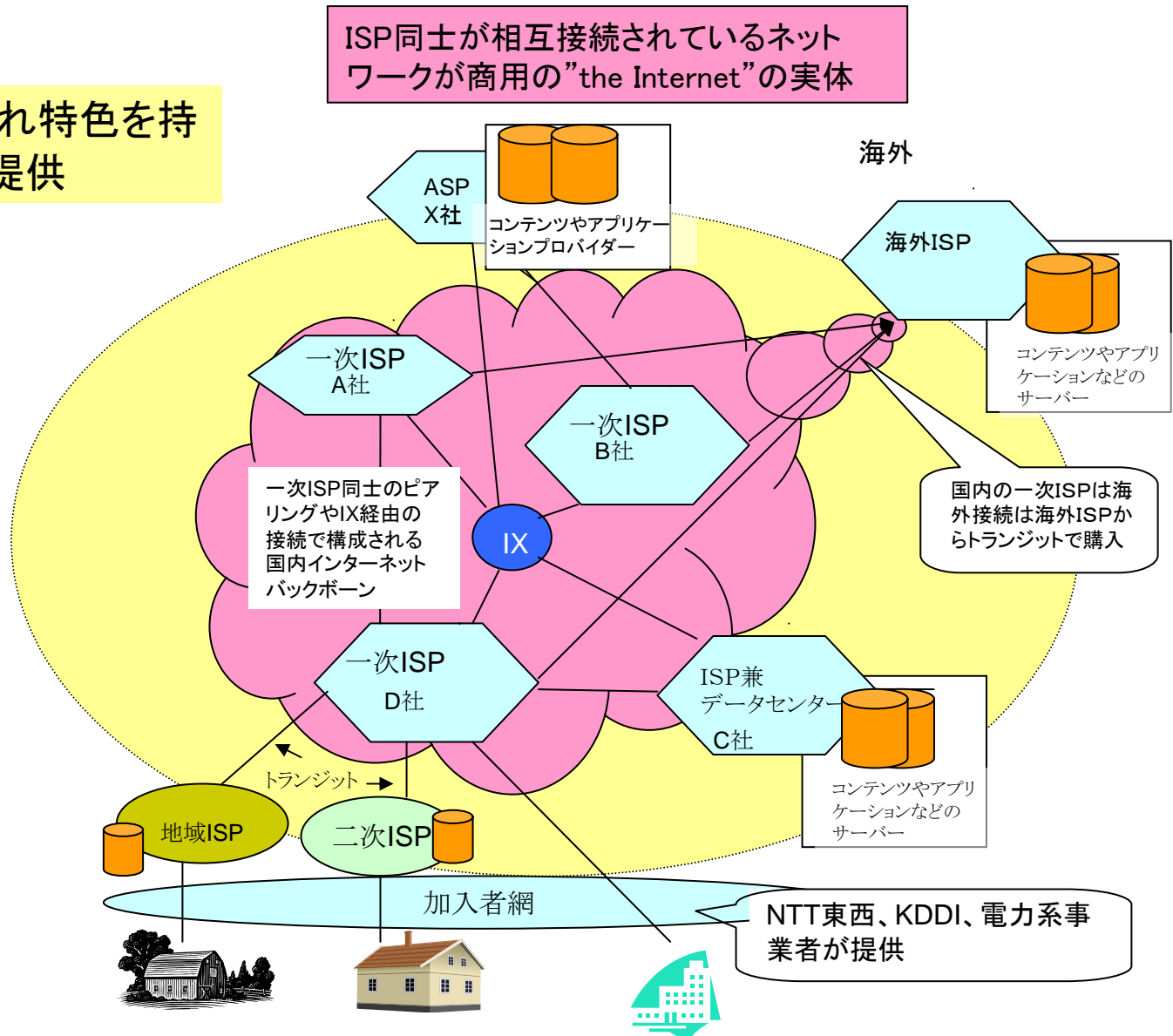
- 全国規模のISP
- 地域系ISP

顧客で分類

- 企業向けISP
- 卸売りISP
- 個人向けISP

サービスで分類

- サポートに特色
- セキュリティに特色
- コンテンツに特色
- スピードに特色あるISP



インターネットを支えるISPの役割(2)

ISPは多岐に渡る役割を担う

サポートのサービスレベル競争がインターネットの普及に貢献した。

コンテンツ・アプリケーションレイヤー

ワンストップで提供されると便利

プラットフォームレイヤー

↑
↓
一体として提供するのがISPの基本的提供形態

通信サービスレイヤー

物理網レイヤー アクセス網

利用者に対する多様なコンテンツ・アプリケーションの提供
メール、ホームページ、ブログ、IP電話、各種コンテンツ提供

ユーザサポート・接続管理

- ① 利用者の登録・管理
- ② 認証・課金・決済
- ③ サポート提供(電話、メール、オンサイト)

安心・安全・セキュリティ提供

- ① 迷惑メール、違法有害情報対策
- ② ボットネット、DDoS対策など

コンテンツ提供者への決済機能提供

セキュリティや消費者保護の観点から今後ますます重要な機能

インターネットの必須機能の提供

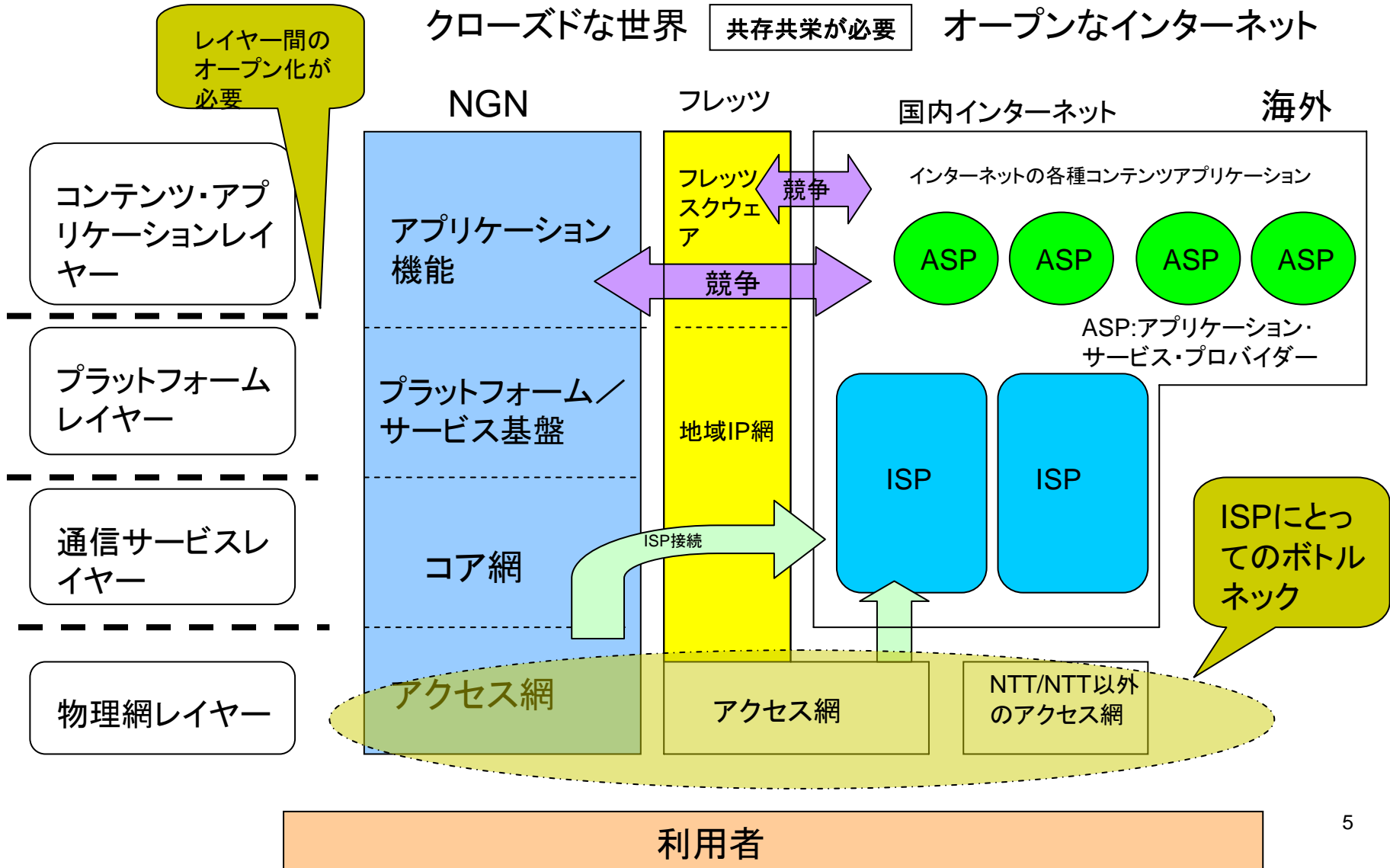
- ① 利用者、サーバーへのIPv4,v6アドレスの付与管理
- ② インターネット経路制御・運用管理(自律・分散・協調)
- ③ ISP相互接続、海外接続によりインターネットを構築
- ④ インターネットに必須なDNSサーバー等を運営

接続機能提供

- ① 利用者へのインターネットへの接続提供
- ② 企業やコンテンツ事業者への接続提供

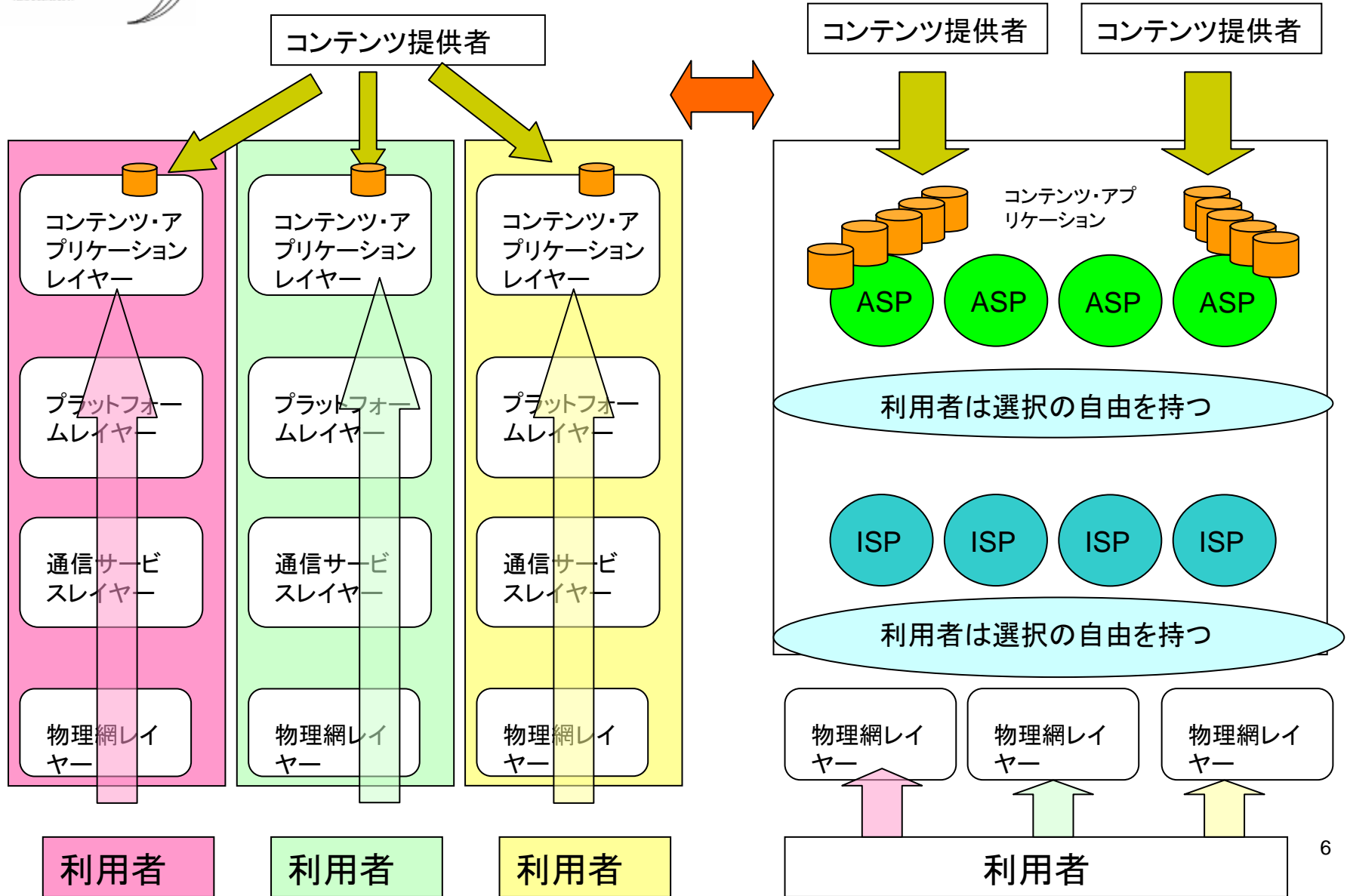
ネットワーク提供における基本機能

ISPにとってキャリアのアクセス網は県間・県内といった地理的区分に関わらず、今も将来もボトルネック設備(指定電気通信設備)



ネットワークの中立性を確保するための在り方

「垂直統合の世界」と「自由な選択ができる世界」



まとめ

- IP化の時代にあって、距離区分の規制の意味は失われつつあるが、ISPにとってアクセス網がボトルネック設備であることは変わらない。
- NGNのオープン化を担保する競争ルールがないと、ISPとしての事業展開に支障が生じる懸念がある。(アクセス網のオープン化が必要)
- アクセスインフラを持つ事業者によるインターネット接続サービスなど、上位サービスの提供(垂直統合)はISPにとっては影響が大きい。
- キャリアがISPとともに通信インフラの機能を活用し、発展するネットワークを作る仕組みが求められる。
- 多様性はインターネットにおける最も重要な特長のひとつ。その担保のためには、利用者がISPを自由に選択できることが重要。